

授業科目	薬理学				実務家教員担当科目	-					
単位	2.	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期				
担当教員	東 泉										
授業概要	<p>薬理学は、薬物と生体がどのように作用しあうかを学ぶ。</p> <p>前半は、薬の作用のしかた、薬の有害作用、薬の効き方に影響する因子は何かを学ぶ。</p> <p>後半は、汎用される主な治療薬について、なぜ効くのか、どのような有害作用があるのかを理解し、薬物療法に関する基礎的知識を身につける。</p>										
授業形態	講義	授業方法	Google Formを利用								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の適切な取り扱いや保管に関する法律について説明できる。</li> <li>2. 薬物療法における薬の生体内運命を説明できる。</li> <li>3. 薬効に影響する因子について説明できる。</li> <li>4. 主な治療薬の作用のしかた、薬理作用を学び、説明できる。</li> </ol>										
理想的レベル	標準的なレベルを十分達成し、汎用される薬の作用や副作用について十分理解し適正に使用でき、保健指導にも活用できる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）				備考						
試験	80%										
小テスト	20%										
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21514J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
該当部分の予習・復習										4	
授業計画											
第1回	<p>テーマ：薬はなぜ効くのか</p> <p>薬理学とは、薬の作用点について解説する。</p>										
第2回	<p>テーマ：薬の生体内運命</p> <p>投与された薬は体内でどのような運命をたどるのかについて解説する。</p>										
第3回	<p>テーマ：薬の効き方に影響を与える因子</p> <p>薬の効き具合を左右する薬剤側、生体側の因子について解説する。</p>										
第4回	<p>テーマ：薬の有害作用</p> <p>薬の二面性(有効性、有害性)、相互作用（飲み合わせ）について解説する。</p>										

第5回	テーマ：医薬品の取り扱い 医薬品を適正に管理するための法律や、取り扱い上の注意点について解説する。
第6回	テーマ：末梢神経にはたらく薬 自律神経系（交感神経、副交感神経）に作用する薬について解説する。
第7回	テーマ：中枢神経にはたらく薬1 薬物依存を起こす薬や乱用薬物のリスクについて解説する。
第8回	テーマ：中枢神経にはたらく薬2 抗てんかん薬やこころの病の治療薬について解説する。
第9回	テーマ：循環器にはたらく薬 心臓の疾患、血圧の治療薬について解説する。
第10回	テーマ：血液にはたらく薬 貧血の治療薬、止血薬について解説する。
第11回	テーマ：炎症や痛みをおさえる薬と抗アレルギー薬 抗炎症薬や抗アレルギー薬について解説する。
第12回	テーマ：呼吸器・消化器系にはたらく薬 喘息、咳、腹痛の薬について解説する。
第13回	テーマ：感染症と治療 薬物による感染症対策および抗菌薬について解説する。
第14回	テーマ：抗感染症薬 抗ウイルス薬、予防接種、消毒薬について解説をする。
第15回	テーマ：その他の治療薬、まとめ
テキスト	教科書：看護学テキスト NICE 薬理学（荻田喜代一、首藤誠 編，南江堂）
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	参考図書：薬がみえる1～4（MEDICMEDIA） イラストで理解するかみくだき薬理学 改訂3版（南山堂）
課題に対するフィードバックの方法	小テストは正答を公開します。
学生へのメッセージ・コメント	生化学・生理学の基礎知識があるとわかりやすいと思います。 薬に関する情報に興味を持って、わからないところや深く知りたいところがでてきたら調べてみて下さい。